

Kodak



新聞オフ輪で毎時13万部の高速印刷をしても位置ズレが生じず45万部刷り切った Prosper S20の精度の高さに驚きました。

日本で初めて新聞オフ輪にKodak Prosper S20インクジェットプリンティングシステムを搭載し、中日新聞と中日スポーツ紙面に可変データ印刷をフル活用した斬新な企画広告を掲載。広告主と読者の新聞離れに歯止めをかける試みとして、新聞広告に新しい可能性を創出。

中日新聞グループは日刊4紙で330万部を発行する最強のブロック紙

名古屋市に本社を構える中日新聞社は、中日新聞、東京新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の日刊4紙と中日スポーツ、東京中日スポーツのスポーツ2紙を発行する日本最大の地方新聞社である。創刊から128年の歴史を持ち、中日ドラゴンズやナゴヤドームなど関連企業・団体も数多い。発行部数は日刊4紙で約330万部。購読者は首都圏、中部圏など1都15県にも及び。主力紙である中日新聞の発行部数は、4紙のな

かで最も多く約265万部。地域に密着した記事構成が大きな特長で、地方版は7県合計35版にも達する。この中日新聞は、主にグループ会社の中日新聞印刷株式会社で印刷されている。同社は岐阜、東濃、豊田、辻町の4工場の他、中日新聞社内の生産ラインも一部運用し、静岡県を除く中部6県の朝刊85%、夕刊56%の印刷を任されている。なかでも最新鋭の高速新聞オフ輪4セット(40頁・24個面カラー対応)を擁する辻町工場は、朝刊80万部という4工場最大の印刷能力を誇っている。

新聞広告の新しい試みに挑戦するためハイブリッド印刷の導入を決断

同グループではオフセット輪転機とインクジェットシステムで可変データを印字する「ハイブリッド新聞印刷」の導入を模索してきた。インクジェット技術を活用すれば新聞紙面に可変データ印刷が可能となり、紙の新聞に新しい価値と可能性が付加できるからである。背景には「新聞は読者一人ひとりへの手紙である」という中日新聞社社長の熱い思いがあった。また「全日本広告連盟名古屋大会」の開催が決まったことも導入を加速した。全国の広告関係者が一同に集う「全広連大会」が39年ぶりに名古屋で開催されるとあって、この機会に「新聞広告の新しい試み」を提案しようと考えた。DICグラフィックス(株)を窓口に、導入機種はKodak Prosper S20インクジェットプリンティングシステムに決まり、2014年1月には辻町工場にある高速新聞オフ輪のタワー最上部に設置された。中日新聞印刷株式会社の代表取締役社長、三盃賢一郎氏は Prosper S20 を選んだ理由を次のように話している。

「新聞オフセット輪転機の印刷スピードは毎時13万部にも達します。この高速性に追従できるインクジェットシステムはコダックの Prosper S20 だけでした。このスピードが実現できる機種が他にはなかったというのが決め手です」



代表取締役社長 三盃 賢一郎 氏



辻町工場 工場長 遠山 好金 氏

Prosper S20の最高印字速度は毎分600m。印字幅は10.6cmで、ガイドレールに沿って移動できるため、紙面の好きな位置に変データの印字が可能になった。

日本初!約45万部すべてで数字が異なるビンゴカードを中日スポーツに掲載

同グループがProsper S20による新聞ハイブリッド印刷を初めて行ったのは、全広連大会の約2ヵ月前。プロ野球開幕日と重なる3月28日付の中日スポーツ別刷りだった。一面に中日スポーツ創刊60周年を記念したプレゼントキャンペーンで「ビンゴカード」を変データ印刷した。数字の組み合わせは新聞1部1部ですべて異なり、約45万部が読者に届けられた。また球団選手の背番号と絡めた当選番号は当日から3日間にわたって掲載され、数字を5つ揃えると懸賞に応募できるという仕組みになっている。Prosper S20による初めてのチャレンジについて、中日新聞印刷株式会社 辻町工場の工場長、遠山好金氏は次のように振り返っている。

「初めての経験だったので、慎重には慎重を期しました。高品質で当たり前とされる別刷り特集なので、特に印字位置の初期調整に気を使いました。数字と周りの枠をProsper S20と一緒に印字すればズレの問題はないのですが、ユニフォームのカタチをした枠内に数字を変データ印刷するデザインにしたので、少しでもズレると背番号らしく見えず、とにかく正確な場所に印字することが絶対必要でした。しかし実際に刷りはじめてみると、低速から高速時までほとんどズレがなく、高品質に印字できました」

日頃から新聞への広告出稿量が少ないスポン



新聞高速オフ輪の最上部に搭載された Prosper S20

サーが、特集最終面に全面広告を打つなど企画段階から評判も高く、結果は大成功だったと三益社長は喜んでます。

「懸賞に応募された読者は、ビンゴ成立者の約5%弱に達しました。通常の懸賞広告と比べるとレスポンスが非常に高かったと広告局も大変喜んでいました。面白いからまた掲載するという反響も読者からたくさん新聞販売店に寄せられました」

通常、日刊紙はその日限りで読み捨てられてしまいが、今回のキャンペーンでは数日間、手元に残す読者が多くなり、広告効果が上がること判明した。

おみくじ、QRコード、クーポン券などを可変印刷した中日新聞を約55万部発行

新聞ハイブリッド印刷の第2弾は、全広連大会の初日にあわせて、5月14日付の中日新聞朝刊に掲載された。名古屋を中心に活躍するアイドルやアニメなどを紹介する別刷り特集「ナゴヤポパカル新聞」の一面で、おみくじやQRコード、クーポン券などをProsper S20で印字した。おみくじは「大吉」「中吉」など8種類の運勢と「願い事」「仕事」「恋愛」など10項目の内容をそれぞれ変えることで、約55万通りという画期的な可変印刷を実現した。さらに愛知トヨタの広告スペースには、おみくじと連動した8種類のQRコードがリアルで印字され、8種類の車の紹介動画と連動しており、アイドルがお薦めの車を紹介する動画サイトに読者を誘導し、おみくじの結果によって見られる動画も変わるという手のこんだクロスメディア広告になっている。また割引額が異なる3種類のクーポン券はレンタルショップTSUTAYAの広告で、すぐ横にはPOSシステム用のバーコードも可変印字されており、TSUTAYAでは、このバーコードデータを購買者のデータ分析ならびにプロモーションの効果測定に役立てているようだ。

新聞離れの歯止め役が期待される新聞ハイブリッド印刷

今回の企画広告は、読者のあいだで大きな反響を呼んだと三益社長は話している。

「名古屋市内を対象に55万部を発行したのですが、評判になって市外から買いに来る読者も多かったそうです。愛知トヨタ様のWebサイトの



可変データ印刷を駆使した「ナゴヤポパカル新聞」

PV数は、掲載日前と比べ50倍にも達しました。スポンサーの評価も高く、今後につながるかと期待しています。将来は広告だけでなく、ニュース面での活用など夢は大きく広がりますね」

「ナゴヤポパカル新聞」をはじめとした全広連の成功に対して、中日新聞社では広告局に社長賞が贈られた。Prosper S20を使って可変印刷を行った中日新聞印刷でも印刷部に社長賞を贈るなど、企業内での評価も非常に高かった。新聞各社を招いた内覧会では、新聞オフ輪を実用速度で運転しても高品質な可変印字が行えるProsper S20に「驚きの声が上がった」と遠山工場長は話してくれた。中日新聞社グループによる日本初の新聞ハイブリッド印刷は、読者にこれまでにない驚きと面白さを提供し、広告主には新聞広告の新しい可能性を示した。新聞に新しい付加価値が創出できれば、長らく続く新聞離れに歯止めをかけることも夢ではないだろう。

中日新聞印刷株式会社



代表取締役社長：三益賢一郎

本社所在地：

〒462-0032 愛知県名古屋市長区辻町2丁目1-1

TEL：052-917-3500（代） FAX：052-917-3516

<http://www.chunichi.co.jp/>（中日新聞社）

コダック 合同会社 グラフィック コミュニケーション事業本部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200

大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180

仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

<http://www.kodak.co.jp>

Kodak